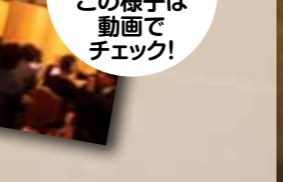
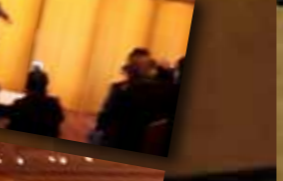


本誌巻末の紙飛行機型紙連載でおなじみの二宮康明先生が第47回 吉川英治文化賞を受賞！ここでは受賞理由と、贈呈式での会場の様子をレポート。

取材／編集部
協力／公益財団法人 吉川英治国民文化振興会



祝連載45年の功績 二宮康明先生 吉川英治文化賞受賞!

二宮康明先生年表

1926年／宮城県仙台市で生まれる
父親から、最先端科学のかたまりである飛行機に関する雑誌や書籍を買い与えられたことから大の飛行機好きとして成長。小学校時代は友人に自作の紙飛行機をプレゼントするほど。

1947年／東北大学通信工学科に進学
本当は子供のころからの夢、飛行機のエンジニアになりたかったが、日本が戦争で負けたため、大学の航空学科が廃止されてしまい断念せざるを得なかった。通信工学を選んだ理由は「電波も空を飛べるから」

1951年／大学卒業後、
電電公社(今のNTT)電気通信研究所勤務
マイクロウェーブを研究(～1984年)

1967年／第一回国際紙飛行機競技会で
滞空時間、飛行距離両部門でグランプリを獲得
同年「子供の科学」での連載スタート(9月号～)

1984年／日本紙飛行機協会設立

2012年／「子供の科学」連載45周年
……87歳の今も現役で連載を継続中!
3000機を目標にまたまた引き続き紙飛行機を設計し続けている!!

紙飛行機が
会場を一周したよ!



紙飛行機を通じて
科学のおもしろさを伝え続けて45年
長寿連載の功績が認められての快挙

毎号、付録の「よく飛ぶ紙飛行機」を連載している二宮康明先生が、今年の吉川英治文化賞に選ばれた! この賞は、日本の文化活動に著しく貢献した人物やグループに贈られる栄誉ある賞。月刊誌で紙飛行機付録の連載を45年も続けていること、紙飛行機を通じて、科学やものづくりのおもしろさ、大切



会場ではゴットハンドの神ワザが次々と!



胴体はまっすぐかな



ちょっと調整...



翼を直して



それっ!

さを伝え続けてきたことが評価されてのことだ。
去る4月11日に行われた贈呈式では、「空飛ぶ夢を、日本の子供たちに提供してくれた恩人」と紹介された二宮先生。みんなが毎号楽しんでる「よく飛ぶ紙飛行機」は、すべて先生が一から設計し、ちゃんと飛ぶかどうかの試験飛行を繰り返した末に掲載に至っている。そんな完成度の高い型紙を、読者のためになんと45年もつくり続けているんだから、空を飛ぶ夢を持っている人にとっては、まさに恩人といえる存在だよ!

また、二宮先生が子供のころから、紙飛行機好きだったことも紹介。日本の敗戦を理由に飛行機に携わる仕事には就けなかったけれど(年表参照)、その後も趣味として紙飛行機の設計と研究を続け、40歳のときに国際大会で優勝したことが今の活躍に通じる転機となったことが明かされた。子供のころからの夢をずっと忘れないでいたこと、それを何十年もコツコツと続けてきたことが、このような大きな栄誉につながったことがわかる。みんなも今好きなことを大事にしよう。先生の人生からは、そんな素敵なメッセージも浮かび上がってくる。

贈呈式の壇上では「高い性能を持つペーパーグライダーは、実は日本生まれなんです。だからこそ、この伝統は日本人が受け継ぎ、発展していかないと力強くスピーチしていた二宮先生。先生の思いは、科学とものづくりが大好きで、先生の付録で遊んできたK o K a読者にかかっているんだ! 先生の志をみんなが継いでいこうね!!

贈呈式で神ワザ披露
その場で調整した紙飛行機が
会場をふわりと一周!

スピーチの最後には、先生が自作の紙飛行機を披露。見せるだけでなく、なんと実際に飛ばしてくれたんだよ! とくに、ゴムカタパルトを使って飛ばした競技用機が、贈呈式の会場をふわりと優雅に一周したときは、静粛だった会場が一転! 来場者から大きな歓声があがり、一同大盛り上がり! 先生が設計されている紙飛行機の性能の高さ、そしてミラクルな調整テクニックが一目瞭然となった瞬間だった(贈呈式同席中のK o K a編集部が鼻高々だったことはいまでもない)。

受賞のお礼として神ワザを披露した二宮先生は、本当にカッコ良かった。その様子はコカネっと! の動画コーナーにアップしたゾ。K o K a読者なら絶対見るべし!